

1. フレンドシップ事業について

1) 事業の概要

フレンドシップ（FS）事業は、教員を目指す学生が種々の体験活動を通して、子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、実践的指導力の基礎を身につけることを目指した事業である。本事業は地域の教育委員会と連携して、学校外施設等を活用し、施設関係者、学校教員、保護者の参加や意見を求め、学生自身が創造的に工夫し活動することを主な内容としている。

事業は「ふれあい活動」と、学生のプレゼンテーションを含む「シンポジウムの開催」、及び教官が指導し学生が参画した「報告書の作成」でもって完結する。「ふれあい活動」

は以下の3つの活動から構成されている。

事前指導を受けた後、活動にわかれる。事前指導後及びふれあい活動後においてそれぞれ感想文を提出する。また自己分析や自己啓発のために東大式エゴグラムを測定する。

○事業1 ふれあい自然体験活動

弘前市中央公民館と連携し、野外活動及び体験学習の指導者としての訓練を行う内容をもっている。教育実習に入る前に、児童・生徒の本質の理解を深めることを目的にしている。当分の間、学校教育課程の学生を対象とし、学生数を限定する。本事業に参加した学生は、希望すればボランティアとして登録し、地域のボランティア活動の支援を行うことができる。

活動の概略は次の通りである。

- 1 野外活動は夏季休暇中に体験活動を含む集団宿泊活動として行う。
- 2 学生は弘前市中央公民館のスタッフとともに体験活動の企画を行う。そのための会議を企画が成熟するまで繰り返し行う。
- 3 安全等を確認するため事前研修を行う。

○事業2 ふれあい支援活動

不登校の子どもの適応支援。

自然とのふれあい、ものづくり、社会見学を含む包括的な活動。

○事業3 ふれあい体験活動

学校には固有の地域社会がある。本年度は弘前市立第三大成小学校と連携し、ふれあい活動を行う。ゲストティーチャーなど保護者との交流も深めたい。学生が工夫した体験活動を通して学校の校庭等を利用して子どもとふれあう。

2) 活動の目的

学生が、自分の得意とする分野で、学生時代でなければできないようなユニークなア

イデアによる遊びや学びの体験活動を企画することで、学生生活の活性化をはかる。

教育学部教官や、学生のもっているすぐれた教育力を地域社会に開き、貢献すること

によって教育学部と地域社会とのつながりを深める（将来は子どもをキャンパスに招き入れる）。

学校5日制に対する地域社会や家庭の取り組みがまだ試行錯誤にある現在、教育

学部

が率先して地域社会に貢献する。

教育学部には幼・小・高・特殊の各学校の幼児・児童・生徒に対応できる学生が
学ん

でいる。この学生達が自己の持ち味を発揮して子どもたちと関わることによって、教師となるための実践的指導力の基礎を身につける。

3) 事業の構成

平成13年度フレンドシップ事業

事業 番号	名称	学年次	連携先	授業名	備考
1	ふれあい自然体験活動	2年次	弘前市立 中央公民館	特別活動実習 前期木曜9・10 後期金曜5・6	新カリ 20名
2	ふれあい支援活動	3年次以上	弘前市 学校適応指導教室	生徒指導 A 金曜7・8	旧カリ 15名
3	ふれあい体験活動	2年次	弘前市立第三大成 小学校	特別活動実習 前期木曜9・10 後期金曜5・6	新カリ 27名